

平成23年度 事務事業評価表(平成22年度分に係る報告)

評価対象事務事業名	カモシカ食害対策事業			事業コード	0664
担当課等	所属名	農林部 林政課	担当係名		
	課長名	農林部 林政課	担当者名	山口 翔	電話番号

1. 事務事業の基本情報

総合計画体系	施策の柱	活力ある産業の振興	コード 5	施策	活力ある農林業の振興	コード 1
	基本事業	生産基盤の整備	コード 2	関連予算 費目名	一般会計 6款 2項 2目 カモシカ食害対策事業(013-01)	
	特記事項					
事業期間	<input type="radio"/> 単年度 <input checked="" type="radio"/> 単年度繰返 <input type="radio"/> 期間限定複数年度			⇒ (開始年度 S50年度～)		
事務事業の概要	新規に造林した幼齢木を、天然記念物であるカモシカの食害から守るため、忌避材の塗布を行う。					
根拠法令等	文化庁文化財補助金交付規則、文化財保存事業費及び文化財保存施設整備費関係補助金交付要綱、天然記念物食害対策費国庫補助要綱					
この事務事業を開始したきっかけ(いつ頃どんな経緯で開始されたのか)						
昭和40年代後半から、ニホンカモシカによる食害が拡大し、林家からの要望があったため。						
この事務事業に対して関係者(市民、議会、事業対象者、利害関係等)からどのような意見・要望が寄せられているか						
特になし。						
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令)はどうか。今後の見通しはどうか						
林業の低迷により、林家数や新規造林が大幅に減少している。今後も少しずつ減少していくと考えられる。						

2. 事務事業の実施状況(Do)

①対象 (誰を、何を対象としているのか)	5年生以下の幼齢造林木	⇒	②対象指標 (対象の大きさを示す指標)	A. 5年生以下の人工林面積(盛岡地域)	単位	ha
				B.	単位	
				C.	単位	
③手段 (事務事業の内容、やり方、手順)	22年度実績(22年度に行った主な活動) ・森林組合への委託により、幼齢造林木に忌避剤を塗り食害から防いだ。 ・国庫及び県補助の関係事務を行った。 23年度計画(23年度に計画している主な活動) 森林組合への委託により、幼齢造林木に忌避剤を塗り、食害から防ぐ。また、国庫補助の関係事務を行う。	⇒	④活動指標 (事務事業の活動量を示す指標)	A. 防除面積(盛岡地域)	単位	ha
				B.	単位	
				C.	単位	
⑤意図 (この事業により対象をどのように変えるのか)	・幼齢造林木がカモシカによる食害を受けないようにする。 ・林家が経済的打撃を受けないようにする。	⇒	⑥成果指標 (意図の達成度を示す指標)	A. カモシカ食害により被害を受けた人工林面積(盛岡地域) 【指標の性格:○上げる ○下げる ●維持する】	単位	ha
				B. カモシカ食害による被害額(盛岡地域) 【指標の性格:○上げる ○下げる ●維持する】	単位	千円
				C. 【指標の性格:○上げる ○下げる ○維持する】	単位	
⑦結果 (上位基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するか)	生産性の向上が図られる 生活環境の改善が図られる	⇒	⑧上位成果指標 (上位基本事業の成果指標)	水田面積(単位:ha) 畑地面積(単位:ha) 樹園地面積(単位:ha) 民有林面積(単位:ha)		

2. 事務事業の実施状況(続き)

⑨事務事業の各種指標の実績及び目標値

区分	指標名	単位	20 年度実績	21 年度実績	22 年度計画	22 年度実績	23 年度計画	24 年度計画	目標年度 目標値
対象 指標A	5年生以下の人工林面積(盛岡地域)	ha	4.99	15.89	16	16.48	22	17	24年度
対象 指標B									年度
対象 指標C									年度
活動 指標A	防除面積(盛岡地域)	ha	16.47	15.89	16	16.48	22	17	24年度
活動 指標B									年度
活動 指標C									年度
成果 指標A	カモシカ食害により被害を受けた人工林面積(盛岡地域)	ha	0	0	0	0	0	0	24年度 0
成果 指標B	カモシカ食害による被害額(盛岡地域)	千円	0	0	0	0	0	0	24年度 0
成果 指標C									年度

⑩事務事業に係る事業費

区分	指標名	単位	20 年度実績	21 年度実績	22 年度計画	22 年度実績	23 年度計画	24 年度計画	*****
事業費	A	千円	856	952	872	861	1,191	895	*****
財源 内訳	④国	千円	571	635	581	574	794	597	*****
	⑤県	千円							*****
	⑥地方債	千円							*****
	⑦一般財源	千円	285	317	291	287	397	298	*****
	⑧その他	千円							*****
	合計(④~⑧)(=A)	千円	856	952	872	861	1,191	895	*****
	延べ業務時間数	時間	200	200	200	200	200	200	*****
	職員人件費(B)(臨時職員賃金は、事務費に含む)	千円	800	800	800	800	800	800	*****
	トータルコスト(A)+(B)	千円	1,656	1,752	1,672	1,661	1,991	1,695	*****


3. 事務事業の評価(See)

必要性評価	①施策体系との整合性 この事務事業の意図は、結果(政策体系)に結びついていますか？	<input type="radio"/> 見直す余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 結びついている	理由: 幼齢造林を守ることによって生産性の向上に結びつく。
	②公共関与の妥当性 市がやるべき事業ですか？ 税金を使って達成する目的ですか？	<input type="radio"/> 見直す余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 妥当である	↳「妥当」とする理由: <input type="radio"/> 法定事務である <input type="radio"/> 内部管理事務である <input checked="" type="radio"/> その他 理由: 林業の低迷により、林家を取り巻く環境は厳しく、これ以上負担を強いるべきではない。また、ニホンカモシカは特別天然記念物であり、その保護経費を林家に強いるべき性質ではない。
	③対象の妥当性 対象の設定は現状のままでいいですか？ 広げられませんか？ また絞らなくていいですか？	<input type="radio"/> 拡大または絞る余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 現状で妥当である	↳「妥当」とする理由: <input type="radio"/> 法定事務である <input type="radio"/> 内部管理事務である <input checked="" type="radio"/> その他 理由: 5年生以上の造林木は、概ね生長点がカモシカに食べられない位置まで高くなっているため、現状のままでよい。
	④意図の妥当性 意図(何を狙っているのか)を絞ったり拡大したりして、成果向上できませんか？	<input type="radio"/> 拡大または絞ることができる ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 現状で妥当である	↳「妥当」とする理由: <input type="radio"/> 法定事務である <input checked="" type="radio"/> その他 理由: 本事業は補助金に頼っている部分が大きく、天然記念物であるカモシカ以外の食害をも目的とすることは難しい。
有効性評価	⑤成果の向上余地 成果がもっと向上する余地はありますか？	<input type="radio"/> 向上余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 向上余地がない	理由: 現状で新規造林はほぼ守られている状況である。
	⑥廃止・休止の影響 事業を廃止・休止した場合、施策の成果に及ぼす影響はありますか？	<input type="radio"/> 影響がない ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 影響がある	その内容: カモシカの食害により、林家が経済的打撃を受け、人工林面積が減少してしまう。
	⑦類似事務事業との関係 類似の事務事業(国、県、市の内部、民間)はありますか？	<input type="radio"/> 類似事業がある <input checked="" type="radio"/> 類似事業がない	事業名: _____ ※類似事業がある場合、その事務事業と統廃合又は連携を図ることにより成果向上はできませんか？ 統廃合・連携検討 <input type="radio"/> できる ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input type="radio"/> できない 理由: _____
効率性評価	⑧事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できる余地はありますか？	<input checked="" type="radio"/> 削減余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input type="radio"/> 削減できない	その内容: 防除方法や忌避材の見直しにより、効果をあげられる可能性がある。
	⑨人件費の削減余地 成果を下げずに人件費(延べ業務時間数)を削減する余地はありますか？	<input type="radio"/> 削減余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 削減できない	理由: 業務は十分スリム化されており、これ以上の削減は難しい。
公平性評価	⑩受益機会の適正化余地 受益機会の適正化余地はありますか？	<input type="radio"/> 適正化余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 公平・公正である <input type="radio"/> 特定の受益者はいない	理由: 市内の林家に毎年広報で周知しているため、受益機会は適正であるといえる。
	⑪費用負担の適正化余地 受益者の費用負担の適正化余地はありますか？	<input type="radio"/> 適正化余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 公平・公正である <input type="radio"/> 特定の受益者はいない	理由: 林業が低迷している現状からすると、林家に負担を強いるべきではない。

4. 事務事業の改革案(Plan)

改革／改善方向	①改善の方向性(この事務事業をどう変えていくか、廃止や拡充、事業方式改善など) ※複数ある場合は、代替案その1, 代替案その2とすること ②改革, 改善を実現していく際に想定される問題点は何ですか? それをどう克服していきますか? (関連部門や全庁的な調整の必要性, トップへの要望も含む)
---------	--

5. 課長意見

一次評価	(1)一次評価者としての評価結果 ① 必要性 ● 妥当 ○ 見直し余地あり : ② 有効性 ● 妥当 ○ 見直し余地あり : ③ 効率性 ● 妥当 ○ 見直し余地あり : ④ 公平性 ● 妥当 ○ 見直し余地あり :	(2)全体総括(振り返り, 反省点) 昭和50年代から実施している長期継続事業であるが、林業の低迷により造林面積が少なくなった今、この保護対策の重要性は増している。
今後の方向性と改革改善案	(3)今後の事務の方向性(改革改善案) <input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携	
		
方向付けの理由と改革改善の内容 今後も継続して支援していくことが、数少ない造林者の林業経営からの撤退を防ぐ手段となる。		